

「キンモクセイの木の下で (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

民家の庭や街路に植えられているキンモクセイは、灌木か低木サイズのものが多い。それなら子どもでも花に手が届く。しかし、大学構内のキンモクセイは、この種としては「巨木」と言っても良いサイズで、1年生の背では花の枝に手が届かない。



しかし、開花から1週間も経つと、大量の花が樹下に落ちて、1年生でも簡単に集めることができる。私は大学本館の清掃用務の方に頼んで、この日一日は地面の花を残しておくように、お願いしておいた。



本学の大学構内には、幼小中高の附属校園だけでなく、「子ども園」「ナーサリー (保育園)」も併設されている。この日は、1年生に混じって、ナーサリーの幼児もキンモクセイの落ち花を拾って遊んでいた。1年生が、幼児に花を拾ってあげる姿も見られた。



6年生も理科の時間に観察に連れ出した。毎年秋に開花を観察しているが、6年生にとっては最後のキンモクセイになる。やはり花を集める子どもが多かった。



キンモクセイはR1 (乳酸菌飲料の小さなペットボトル) に入れて水を足し、ゆっくり回して攪拌すると良い。10分ぐらい試すと、とても良い香りの「キンモクセイの香水」ができる。



キンモクセイ活動の次の時間、子どもたちの机には、「香水ビン」がズラリと並んでいた。持ち帰って冷蔵庫に入れておけば、1週間ぐらいは持つ。冷凍してしまえば、解凍するたびに良い香りを楽しめるだろう。